JMA GROUP
広報誌 vol.21

あさがお

花言葉：「愛情の絆」「堅い結束」

詳しくは裏面へ！
アンケートに
お答えいただいた方の中から
クオカード
プレゼント
抽選で10名様

特集

東埼玉総合病院　地域連携課

患者と治療をつなぐ
医療連携コーディネーター

AREA TOPIC

デイサービス東埼玉

一日でも長く在宅生活が続けられるように

東埼玉総合病院
副病院長　福田 良昭

東埼玉総合病院
病院長　三島 秀康

東埼玉総合病院
副病院長　浅野 聡

東埼玉総合病院 地域連携課

患者と治療をつなぐ医療連携コーディネーター

地域の医療機関や診療所の方とお話しさせていただくことの多い地域連携課では、外来受診の調整を担当しています。患者を治療することができる診療科や医療機関につなげるための窓口です。

入院が想定される紹介患者も、まずは外来を受診していただくため、地域連携課が担当窓口となります。外来の受診調整は院内に限ったことではありません。なるべく早く適切な医療を受けていただくことが最優先なので、診療科の外来が休診日であれば、受診できる別の医療機関につなぐこともあります。

また東埼玉総合病院の診療機能について、地域の医療関係者に知っていただけなければ利用していただけないため、広報活動も地域連携課の重要な役割です。

受診するための院内調整と情報提供

地域連携課は、一般的な医療事務とは別の役割を担っています。

地域の医療機関からの急患や患者紹介の問い合わせ窓口として、「こういった患者を診てもらえないか」という連絡をお受けします。医師が手術や別の急患対応によって受け入れが難しい場合は、対応可能な診療科や医療職で受け入れることができないか院内調整をすることがあります。日常的に院内外の専門職と調整するため、専門用語やある程度の知識を身につけながら、専門職の協力を得て調整役としての役割に携わっています。

また、急患の受け入れを確認する際に医師から、「病棟のベッドが空いていれば受け入れられる」と返答をもらった場合、病棟のベットコントローラー（看護師）に確認の上、受け入れの調整を進めます。

適切な治療のために他院の情報も提供する

一方、医師が「急患の受け入れは難しい」と判断するときもあります。その場合は、医師に理由を確認します。診療科と診断内容が合わないケースや当院が行っていない透析治療が必要な患者であれば、「当院ではこういった理由で受け入れできないが、○○病院であれば受け入れていただけるかもしれません」と、一方的にお断りせず、患者が適切な治療につながるための情報提供をするように心がけています。

また患者の状態やバイタルをお聞きして、必要であれば移送手段のご提案をさせていただくときもあります。患者を適切な医療につなげることも地域連携課の役割として対応しています。

「地域連携の会」で育む医師の地域ネットワーク

地域の先生方を招いて毎年開催している「地域連携の会」も地域連携課が企画しています。昨年から病院の入り口で、ご参加いただいた先生方と写真撮影しています。これは単なる余興ではなく、連携を深めるために2つの目的があって企画したものです。

当院の医師と地域の先生方とは、同じ診療科であれば接点があります。しかし他科になるとお付き合いする機会はほとんどありません。そこで撮影させていただいた写真を院内で情報共有をして、どのような先生が地域にいらっしゃるのか、いわゆる顔の見える関係づくりにつながるツールとして活用させていただいています。当院の常勤医師については顔写真付きで専門資格などの紹介資料を地域の医療機関に提供しています。

この地域連携の会は、地域の先生方と直接お話しする貴重な機会です。近年、当院には新入職の医師が増えており、地域の先生方からは、「顔なじみでない医師に大切な患者を紹介するのは心配だ」との意見もお聞きします。そうした場合は、地域連携の会で直接お話しさせていただくことで紹介がスムーズになります。特定の医師にご紹介いただくのではなく、診療科や病院というチームとして連携の幅が広がります。

待つ医療から、出向く連携へ

広報活動として、地域の医療機関に出向いて情報提供をしています。病院は商品を販売する仕事ではないため、一般の事業会社のような在庫という考えはありません。けれども在籍している専門医の情報や提供できる治療法、診療予約の空き状況などをお伝えすることによって、地域の先生方にとっては紹介先の候補が増えて、早期受診にもつながります。そうした視点からも、患者を適切な治療につなげる広報活動は重要な業務になっています。

そこで2018年4月より、営業専任者を採用して訪問活動を強化。地域の医療機関への訪問回数はここ3年間で4～5倍に増えています。訪問活動を積極的に実施するようになり、地域の先生から様々なご要望を頂けるようになりました。

診療所と病院をつないでスムーズな連携体制を構築

ある産婦人科の診療所のケースでは、40年以上も続けてこられた産科を今期限りで中止して、今後は婦人科として診療を続けるとのお話を伺いました。婦人科では骨粗鬆症の治療が中心になりますが、これまでは妊婦の患者を循環器科に紹介いただいていましたが、今後は整形外科への紹介が増えるとの情報をいただきました。

そこで整形外科ではどのような検査が可能であるかなどの診療状況について情報提供させていただくとともに、院内で毎週実施している診療管理会議で今後、整形外科との連携が見込まれる医療機関として院内医師へ報告しました。

一方的に情報発信するだけではなく、病院から地域へ出向くからこそできる連携だと思います。

些細なご意見にも対応する

これまで内視鏡の共同利用の同意書は、院内で使用しているものと同じものを用意していましたが、一部に共同利用にそぐわない内容があると地域の先生からご意見をいただき、改善しました。

出向いた医療機関で、「紹介した患者の逆紹介をまだ受けていないが、患者の状態はどうなりましたか」と聞かれるときがあります。病院に戻って返書の進捗を確認。滞っているようであれば主治医にそのことを伝えて、報告書を手配します。こうしたお話も、直接出向いたからこそお聞きできたことです。

些細なことかもしれませんが、ご意見などは小さなうちからキャッチして改善し、それをフィードバックします。

また、紹介患者以外でも病状が安定した患者を積極的に診療所へ紹介することで、機能分化を推進しています。特に地域で罹患されている方が多い糖尿病や骨粗鬆症は「地域連携外来」で患者の重症度を半年から1年ごとに当院の専門医が評価し、重症度の高い方は病院で、軽症の方は診療でそれぞれの診療機能に見合う医療が継続されるように調整しています。

これからも地域連携課では、地域に寄り添いながら、患者と治療をつなぐ医療連携コーディネーター役を努めてまいります。

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。

東埼玉総合病院 地域連携課　TEL 0480-40-1318(直通)　埼玉県幸手市吉野517-5

海老名総合病院・海老名メディカルプラザ　糖尿病センター

伝統ある海老名総合病院の糖尿病センターの さらなる発展に尽力いたします。

海老名総合病院・海老名メディカルプラザでは、4月より糖尿病センターの新センター長として、平野医師を迎えました。糖尿病センターの印象や体制の変化について平野医師に話を聞きました。

伝統ある糖尿病センター

数ある一般病院の中でも海老名の糖尿病センターは全国的に有名です。その理由は、何といっても長年にわたりセンター長をなされていた大森安恵先生にあります。先生は東京女子医科大学の教授で全国的に名高い同病院の糖尿病センター長でした。ご定年後は海老名総合病院に赴任されてセンター長として、糖尿病診療にご尽力されました。先生は「妊娠と糖尿病」の世界的な権威でした。現在でも妊婦や1型糖尿病の症例が多いことは、当院の特色となっています。

大森先生から誘われて海老名に来ることに

私は東京都品川区にある昭和大学に勤務していました。大講座の第一内科に所属していましたが、糖尿病代謝内分泌内科が分離独立し、初代教授となりました。教授時代は糖尿病性大血管合併症の研究に没頭し、教育に診察に多忙な日々を送っていました。定年が近くなってきた頃、大森先生から海老名総合病院に後任として来てもらえないかとお誘いがありました。熟慮の末、ありがたくお受けすることにいたしました。その理由は、言うまでもなく大森先生からのお誘いであったこと。もう一つは、残りの人生を糖尿病・代謝学の臨床に専念できる環境に身を置きたかったことです。

海老名に来ていかがですか

予想以上に素晴らしい職場でした。まず医師以外のメディカルスタッフ（栄養士、薬剤師、検査技師、看護師）が糖尿病患者への教育、ケアーに情熱を持って対応していることに感動しました。患者会である「けやきの会」は、定期的に広報誌を出版して啓蒙活動も盛んです。医師は常勤4名ですが、フットワークが軽く、患者さんへの応対がとても丁寧です。来年度は入職希望者がすでに2名いて、より充実した診療体制を組めると思います。当院は海老名市に一つしかない中核病院です。そのため患者が当院で複数の診療科にかかるケースが多く、電子カルテで全容を把握できるメリットがあります。これが今後行う臨床研究の大事な土台となります。

糖尿病センター長
平野 勉　*Tsutomu Hirano*

1980年、昭和大学医学部卒業。トロント大学、昭和大学病院、板橋中央総合病院を経て、1991年より、昭和大学病院で糖尿病、脂質異常症の診療を行う。教授、診療科長を歴任し、2019年4月よりJMA入職。同時に、昭和大学 客員教授も務める。
専門は、糖尿病、脂質代謝、動脈硬化。

現在取り組んでいることは何ですか

血糖の持続モニターやインスリンポンプが目覚ましい進歩を遂げています。これら最新の医療機器を駆使して血糖プロフィールを健常人に近づけるようにいたします。以前は血糖の厳格な管理に必要悪とも考えられていた低血糖ですが、最近では糖尿病者の死亡を増やす元凶とみなされています。低血糖をきたさない血糖管理に全力を尽くします。

次に重要なのが合併症予防です。従来は血糖管理がすべてと思われていましたが、特に大血管合併症では血圧、脂質、体重管理が血糖管理以上に重要であることがわかってきました。欧米では糖尿病と言えば心筋梗塞と言われるほど心血管疾患が多く発症しており、その予防には高強度のスタチン薬が広く使われています。ところが、我が国では十分量のスタチンが投与されず、高血圧の管理も未だに不十分です。これが結果的に脳卒中や心筋梗塞の発症を招いてしまいます。当院では科学的エビデンスに基づいた包括的で効力のあるリスク管理をいたします。

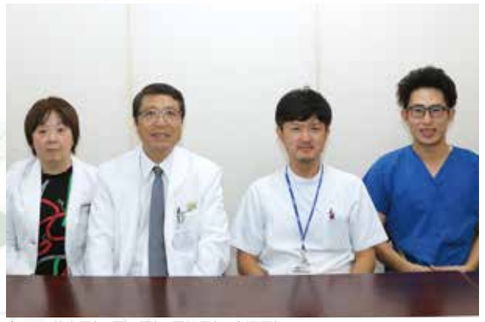
今後の取り組みについて教えてください

具体的に動き始めたのが、コホート研究です。「ＶｉＮＡコホート」と名付けたこの研究は、糖尿病センター通院中のほぼ全患者を登録し、前向きに予後を調査するものです。その研究により、まず当院における糖尿病患者の実態が把握されます。また、当院でしか測定できない動脈硬化や腎症のバイオマーカーを組み入れているため、新規性の高い研究になります。合併症の精査を全員に実施するため見逃しが少なくなり、診療の質も一気に上がるはずです。このコホートは、年次を重ねるごとに美酒のような味わい深い研究になると期待されます。コホート研究以外にも新規糖尿病薬や脂質改善薬の臨床研究も積極的に行って存在感をアピールします。

地域の先生方にお伝えしたいことはありますか

当センターでは、海老名メディカルプラザで患者さんを診せていただいてから、必要に応じて海老名総合病院の糖尿病センターへ教育入院をご案内いたします。コントロールが悪い患者さんや、合併症が進んでしまった患者さんは、海老名メディカルプラザまでご紹介ください。

最後に、大森先生から引き継いだ糖尿病センターをさらに発展させられるよう努力しますので、応援をよろしくお願いいたします。



左から、鈴木医師・平野医師・平嶋医師・麻沼医師

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。
海老名総合病院 地域連携課　TEL 046-234-6719（直通）　神奈川県海老名市河原口1320

下田メディカルセンター　整形外科

新世代の行動力で地域医療を支えます

超高齢化が進む南伊豆の下田地域を支えたい。地域医療に貢献することを志す二人の医師が下田メディカルセンター整形外科で奮闘しています。近隣の医療機関との連携、そして先輩医師のサポートを得ながら地域完結型の医療を目指しています。

整形外科は医師が2名体制になりました。診療科に変化はありますか

昨年度までは、常勤は土肥医師1名でした。4月に私が入職して2名体制になったことで、外来患者数も手術件数も増加傾向にあります。主に土肥医師は肩と人工関節を、私は上肢と人工関節を専門としています。

土肥医師とは、週1回金曜日のカンファレンスで外来や病棟の患者さんの情報を共有し、治療方針の検討を相談しています。また、近隣の医療機関には私たちの母校である自治医大出身の先生も多いので、判断に迷うときは電話で相談に乗っていただくこともあります。

どのような患者さんの受診が目立ちますか

病院全体に言えることですが、高齢の患者さんが目立ちます。整形外科については、近隣に診療所がないため、腰痛や膝痛など慢性的な症状から骨折までを幅広く診ています。この地域は農業を営んでいる患者さんが多いのですが、長い間、腰痛や膝痛を我慢してきて、その痛みに耐えられなくなってから病院を受診する方が多いように思います。高齢化に伴い、整形外科の受診患者数は増え続けそうです。

断らない夜間救急をどのような診療体制で目指しますか

夜間は、当直医が整形外科の患者さんを診てくれるので、翌日に患者さんを引き継ぎます。当直医が受け入れできない場合は、オンコールを受けて、自宅から駆けつけるようにしているので、夜間・休日でも救急患者をなるべく断らない体制を整えています。

整形外科 医師
小竹 将允 *Masamitsu Kotake*
2014年、自治医科大学卒業。静岡県立総合病院、下田メディカルセンター、藤枝市立総合病院での勤務を経て、2019年4月より下田メディカルセンターに再び入職。

限られた医療環境ですが手術件数は増えていますね

手術については、医師1名と看護師のチームで行っています。たとえ下田メディカルセンターで対応できない手術であっても、患者さんが当院を望まれるようであれば、他院の先生に調整を取り、当院で手術していただくこともあります。また、脊椎の患者さんは当院では診ることができないので、伊豆今井浜病院にお願いしています。

早期リハビリテーションで在宅復帰はしやすくなりますか

近隣にはリハビリ専門の医療機関が少ないので、外来や入院の患者さんには、下田メディカルセンターでリハビリを提供しています。術後は翌日よりリハビリを行い、早期離床・退院・回復を目指します。当院のリハビリテーション科は若手のスタッフが多いですが、患者さんに対してとても熱心で、大変ありがたい存在です。

今後、下田ではどのような医療を目指していますか

外傷、人工関節手術、肩関節鏡手術など、以前に比べて下田メディカルセンターで対応できる治療は確実に増えています。

また、私も研修日として月1、2回、3月まで勤務していた藤枝市立病院に行き、新しい手技や術式を学んでくるように努めています。近隣医療機関には、経験豊富な先輩医師が大勢いらっしゃいますので、そういった先生方の力もお借りしながら、なるべくこの地域で治療を完結させたいと考えています。少しでも患者さんの治療環境が整うよう、尽力してきたいと思います。近隣の医療機関の先生方には、遠慮なく患者さんを当院へご紹介いただきたいです。

どのような医療を目指していますか

幼い頃から医者の道を目指していたわけではありません。リハビリを受けていた祖母を身近で見ていたので、理学療法士や、獣医を意識した時期もありました。今思えば、昔から医療職には興味があったように思います。

私が通った自治医科大学は、医療に充分ではないへき地等における医療人材の確保および向上と、地域住民の福祉の増進を図ることを目的に設立されました。私も「地域医療に貢献したい」という想いを抱いて医師になりました。

初期研修の2年間は、静岡県立総合病院で学び、初めて下田メディカルセンターに着任したのは、2017年4月でした。当時は、病院内の事情もあって内科と整形外科の両方を診ていましたが、その後、藤枝市立総合病院での勤務を経て、2019年4月から、整形外科医として再び下田メディカルセンターに戻ってきました。

下田の生活はいかがですか

学生時代はテニスをしていましたが、最近は仕事が忙しくなって、運動から遠ざかっています。子どもと一緒になって遊ぶのが、唯一の運動でしょうか。整形外科の土肥医師とは年齢も近く、家族ぐるみでお付き合いがあり、仕事もプライベートでも良好な関係を築いています。

下田メディカルセンター　整形外科

［主な対応疾患］
- 骨折、外傷を含む整形外科一般
- 腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、椎間板ヘルニアなど脊椎疾患
- 変形性膝関節症、変形性股関節症などの変性疾患
- 関節リウマチ
- 骨軟部腫瘍
- スポーツ整形外科（膝靱帯損傷、半月板損傷など）
- 末梢神経障害や炎症性疾患（ばね指、手根管症候群など）
- 上・下肢の変形疾患（肘、手、関節症、外反母趾など）

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域医療連携室までご連絡ください。
下田メディカルセンター 地域医療連携室　TEL 0558-25-3535（直通）　静岡県下田市6-4-10

都市型の地域医療連携推進法人が誕生

地域完結で医療を提供するためのソリューションを共有する

人口減少、医療人材不足に悩んでいる地域で、医療提供を維持するために設立された推進法人が多い中、さがみメディカルパートナーズは全国でも数少ない都市型の推進法人として活動を始めました。立ち上げにあたっては、医師会等に趣旨をご説明したうえで、地域の幾つかの施設に参画をお声掛けしてきましたが、まずはその中で設立にご同意いただいた5法人で2019年4月よりスタートする形となりました。

多国間貿易のイメージで地域連携

地域医療連携推進法人（以下、推進法人）では、参画施設間で機能をバランス良く編成することや人材の共同研修、医薬品等の共同購入などができるようになります。「競争」よりも「協調」により、地域において質が高く効率的な医療提供体制の確保を目指します。

神奈川県央地域は医療需要が高まっており、民間の医療機関が多いという特色があります。推進法人では、これまでの単一的な連携ではできなかったことに取り組んでいきたいと考えています。

私たちの方針としては各法人の独立性を保ちながら、二国間ではなくて多国間貿易のイメージで事業を展開していきます。各施設や法人が相対で連携を組んでいくこれまでの方法はとても手間がかかりました。それが推進法人内であれば、例えば情報フォーマットを統一するためのルール作りもスムーズにできます。

法人内で医療情報の共有を実現

すでに参画されている幾つかの施設では、急性期病院の海老名総合病院の電子カルテ端末を設置しています。医師同士の紹介状にも診療情報は入っていますが、中長期間の経過観察等は電子カルテを閲覧したほうが素早く情報を共有できます。

医療情報提供書を作成する事務作業は頓雑です。それが電子カルテを相手の施設に設置すれば、患者を受け入れる施設の医師は電子カルテの閲覧により、転院前から治療の準備を始められます。病院は離れていても、転棟するように患者を送れるようになります。

医療におけるICTの活用が期待されていますが、未整備な部分は多いと思います。また、オンライン診療についても、導入のハードルはとても高いのが現状です。いずれは、そうしたことも推進法人内であればやりやすくなるでしょう。

給食センターを共用できないか

病院食の給食センター化にも取り組んでいきます。「調理済み・盛り付け済み」冷凍型の病院食は、すでに11月より海老名総合病院において実験的に導入を始めています。

病院給食については今、人材不足と人件費の高まりにより委託会社も悲鳴をあげているような状況です。近隣の医療機関も同じような問題を抱えています。海老名総合病院でも、これまで院内厨房で材料の切り出しから調理していましたが、今後は従来のように人手をかけられなくなるでしょう。

そのような背景もあり、まずは常食が提供できる患者さんを対象に「調理済み・盛り付け済み」冷凍型の病院食に切り換えていく取り組みを始めたところです。業務効率化の面で一定の効果が実証できれば、推進法人がコーディネーター役となり、参画している各施設への展開も図っていきたいと考えています。

しかしながら一方で制限食は従来通り院内調理を継続するため、ドラスティックに職員数を減らすことはできませんが、これまでクックサーブで必要とされていた施設設備維持のためのメンテナンスコスト、水光熱費、人件費等は、かなり圧縮できると考えています。また、供給量が増えればスケールメリットも期待できます。介護施設の場合、利用者様に提供する食事への考え方が様々ですので、親和性については評価の分かれるところかと思います。ただ、やわらか食対応や、ムース食対応の商材もありますので、これらを組み合わせて導入提案することも視野に入れています。

代表理事：服部 智任
（海老名総合病院 病院長）

「地域包括ケアの総合商社」として地域に貢献

今後も推進法人が地域包括ケアシステムを構築するための課題や地域の医療福祉ニーズを把握して、どのようなソリューションを提供できるか考えていきます。各施設では気づきにくいニーズも、推進法人であれば多様な視点から探ることができます。そしてソリューションの部分は、病院食のように企業の方々にも協力していただきながら模索していきたいと考えています。推進法人の枠組みを活用し、地域包括ケアの総合商社として、参画施設の経営に資する施策に取り組んでいきます。

地域の医療人材を育成する

人材教育についても推進法人で取り組んでいきます。各施設の看護師の力量が揃えば人材の異動はしやすくなります。そして人事交流によって相手施設にどのような職員がいるのか見えるようになれば仕事もやりやすくなるでしょう。

とくに感染症や医療安全は、急性期、療養病床などによらず、どこの施設でも取り組んでいる課題です。例えば海老名総合病院で培かった知識を各施設と共有するために、海老名総合病院の看護師が出向いて研修を実施したり、参画施設の職員を研修に受け入れることも計画しています。また、6月には外国人スタッフとのコミュニケーションをテーマにしたセミナーを開催しましたが、今後も医師会と共催して、「保険指導」や「災害医療」といった幾つかのテーマに沿った講演会を予定しています。医療人材育成や、地域の各施設にとって有益な情報提供等を推進法人の枠組みを活用して実践し、限りある医療・介護リソースを有効活用していきたいと考えています。

地域医療連携推進法人を活用した病院給食における国内初の取り組み

医療材料等の取引関係にある三菱商事グループとの電気厨房機器導入による省人化実証実験を踏まえ、病院食の一部に、同子会社の株式会社日本ケアサプライ（代表取締役社長：金子 博臣 本社：東京都港区）の商材である「調理済み・盛り付け済み」冷凍型弁当（写真）を導入しました。

地域医療連携推進法人さがみメディカルパートナーズの枠組みを活用して事業展開し、入院患者数の多い海老名総合病院から導入を開始。実証結果を踏まえて、参加法人の施設へ提供を検討していきます。院内調理に関わる要員やスペースの圧縮を段階的に行い、施設内における“厨房設備レス”を実現する事業モデルの実現を目指しています。

地域医療連携推進法人 さがみメディカルパートナーズ

〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1519

医療連携推進区域	神奈川県厚木市、海老名市、座間市、綾瀬市、大和市、愛川町、清川村
参加法人施設（2019年4月時点）	**5法人、全17施設・事業所** ■社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院、座間総合病院、ほか5施設・事業所 ■医療法人社団静岡メディカルアライアンス 今里クリニック ■社会福祉法人ケアネット 特別養護老人ホーム4施設 ■医療法人社団神愛会 オアシス湘南病院、ほほえみケアネット ■医療法人博清会 海老名田島クリニック 海老名西口糖尿病クリニック 綾瀬消化器内科クリニック
主な連携推進業務	●医薬品、材料の共同購買 ●設備共同利用 ●患者・利用者の送迎一元化 ●職員教育・育成の共同化および職員間交流 ●二次医療圏内での病床の効率的運用 ●給食（配食）センター化（業務委託型）

JMA GROUP TOPICS

「JMAグループTOPICS」では、グループ内におけるイベントや取り組み・ニュースなどをご紹介いたします。

医療法人社団静岡メディカルアライアンス

1 下田メディカルセンター
地域住民と一緒に防災訓練を実施

下田メディカルセンターは、災害時の医療拠点となる「救護病院」に指定されています。
病院には、大規模災害が発生した際に、患者さんの安全確保、新たな傷病者を受け入れるための病院機能の維持及びスペースの確保といった役割が求められます。その役割を十分に発揮するためには、日ごろより防災訓練を通じて、災害時の具体的な対応策が各部署、職員に理解され、浸透していることが重要です。

当院では、こうした災害時に備え、11月16日（土）震度6弱を想定した防災訓練を実施しました。避難訓練はこれまでも実施してきましたが、救命措置の優先度を判定するトリアージや、処置・搬送を実施するのは初めてのこと。

職員に加え、今回は下田市から募った30名のボランティアさんにも傷病者役を演じていただき、計130名の大規模な防災訓練となりました。破れた衣装や特殊メイクを施した、かなり本格的な傷病者役のボランティアさんたちの姿に、訓練をする職員たちの表情も引き締まります。訓練では、医師が、傷病者役を重症度にトリアージします。それぞれのゾーンへ搬送、必要な医療対応を確認したうえで、現場の状況を本部へ報告し、情報を一元化しました。

今回の防災訓練によって、さまざまな課題も見えてきました。下田メディカルセンターでは、災害時に患者さんや職員の命が守れるよう、今後も様々な想定で定期的に訓練を実施してまいりたいと思います。

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

2 海老名総合病院
小児科、ギネス世界記録に協力

ホスピタル・クラウンとは、クラウン（道化師）が小児病棟を訪問し、つらい入院生活を送る中で本来の子どもらしさを失いがちになっている子ども達に笑顔を届け、キラキラした瞳を取り戻すことを目的とした活動のことです。海老名総合病院では、日本ホスピタル・クラウン協会の活動に共感し、7年前から小児病棟に月2回のペースで訪問をお願いしています。

3542匹の折り紙のカエル　（写真提供）日本ホスピタル・クラウン協会

2019年9月、協会が主導した3542匹の折り紙のカエルで描いた巨大なモザイク絵が、「折り紙で作ったカエルの最多展示数」として、ギネス世界記録に認定されました。
このモザイク絵には、海老名総合病院に入院中の子どもたちも協力し、私たちもギネス記録の認定書をいただきました。たくさん折ったカエルには、「無事、家にカエル」「ケロッと病気が治る」という願いが詰まっています。

海老名総合病院では、今後もクラウンと一緒に、入院中のお子さまやご家族に笑顔を届けていきます。

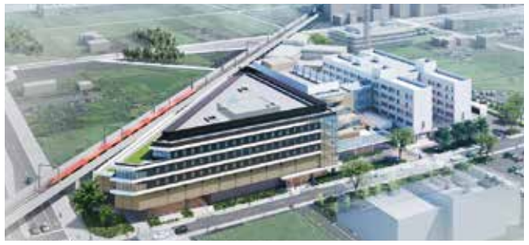
3 海老名総合病院
2021年4月 増改築工事をスタート

海老名総合病院（神奈川県海老名市）は1983年に開院して以来、救急医療の提供に努めてきました。築36年となる現在、設備の老朽化だけでなく、たび重なる増改築による非効率な配置や施設の狭隘化が課題となっていました。

一方、神奈川県央医療圏では、海老名駅周辺の開発に伴う人口増により、救急医療ニーズは増加すると見られています。これらを踏まえて、救急医療ニーズの拡大に対応できる機能を整備するため、海老名総合病院では、2021年4月から大規模増改築工事を開始いたします。

24時間365日断らない救急医療の実現を目指して、これからも医療機能の充実に努めて参ります。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

増改築工事のポイント	■救急医療の強化 新棟に救命救急センターを配置 救急病棟の拡充（現在の20床から30床へ） ■がん、急性期医療の強化 救急車受け入れ件数の増加に対応 手術件数の増加に対応



デイサービス東埼玉　一日でも長く在宅生活が続けられるように

デイサービス東埼玉（通所介護）は2004年2月に開所し、15年が経ちました。

要支援または要介護認定を受けた高齢者がご自宅から通い、日帰りで利用する介護保険サービスを提供しています。

デイサービス東埼玉では、お食事や入浴、排せつ等の日常生活にかかわるお世話に加え、機能訓練やレクリエーション活動（書道や体操、ボランティアによる催し物、外出ツアー等）を通じて、心身ともに充実した一日を楽しく過ごせるように心がけています。

また、デイサービスを利用することで外出したり、人と触れ合ったりできる機会を持っていただき、気分転換を図り、一日でも長く在宅生活が続けられるようにサービス提供しています。利用者様のご家族の身体的および精神的負担の軽減を図っていただく事も目的の一つとしています。

当施設には看護師、社会福祉士、介護福祉士、理学療法士、あん摩マッサージ指圧師が在籍しており、介護度が高い方、医療依存度が高い方のご利用も積極的に受け入れています。

サービス提供できる地域	杉戸町、宮代町、幸手市（一部）
利用可能者	要支援1～2、要介護1～5の認定を受けている方
1日の定員	40名
利用可能日	月～土曜日（祝祭日も営業）
お休み	日曜日、年末年始（12／30～1／3）
サービス内容	送迎、入浴、機能訓練、食事、各種レクリエーション

お気軽にお問合せください　**デイサービス東埼玉**　TEL 0480-34-2063　〒345-0025 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地2-1-2

広報誌「あさがお」アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様にクオカードをお贈りいたします。ぜひご応募ください。

Q1. 今号の感想を教えてください。（選択肢）
Q2. どの記事に興味を持ちましたか？（選択肢）
Q3. JMAグループへの理解は深まりましたか？（選択肢）
Q4. どのような内容が知りたいですか？（自由記入）
Q5. その他、ご意見ご感想をお聞かせください。（自由記入）

応募方法　以下URLのフォームからアンケートにお答えください。また、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。

受付期間　2019年12月20日（金）～2020年2月29日（土）

URL　https://goo.gl/DMVGo2

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

ケータイ・スマホの方はこちらからアクセス！

JMA GROUP

理　念　：仁愛の心で地域の皆様とともに
長期ビジョン：ワンストップかつシームレスなサービスを提供し、地域包括ケアの一翼を担う

あさがお　JMAグループ広報誌 vol.21　2019年12月発行
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1519 海老名メディカルサポートクリニック内
経営企画本部 事業開発推進部 TEL.046-235-0765